

岐阜県支部

岐阜県における道の駅と地域振興に関する調査研究

道の駅はモータリゼーションが進展する中、長距離ドライブの増加や女性・高齢者ドライバーの増加により、円滑な道路交通の「ながれ」を促進するために安心して立寄れ、利用できる快適な休憩施設を求めるニーズに対応して設けられました。

道の駅の機能は休憩機能（駐車場・トイレ等）、情報発信機能（道路・観光・緊急医療情報）、地域の連携機能（特産品販売・レストラン・イベント開催等）を備え、地域とともに、にぎわい・ふれあいを創出しています。

平成 18 年 8 月時点で全国に 845 箇所の道の駅があり、岐阜県は 48 箇所に達しています。これは全国一位の北海道に次いで 2 番目の多さです。道の駅が岐阜県にとってどんな意義があるのか、地域の振興に何か影響をもたらしているのだろうかと興味を持ち、道の駅について調査を行うことにしました。

調査項目を、①現状把握、②道の駅としての機能と効果、③地域振興への影響、④地域活性化への貢献、⑤観光への影響、⑥農業振興の面、⑦雇用の創出と定めて、4 名の調査員が各道の駅の駅長さんを訪ねて聞き取り調査を行いました。

調査報告書には県内 48 箇所の道の駅について、見開きページの左面に現状調査票を、右面に S W O T 分析から道の駅の改善提案を掲載しました。

道の駅全体に共通して言えることは、経営面からは立地環境に大きく影響を受けることです。一般的に国道は交通量が多いので有利であり、県道はやや劣勢になる場合が多いのです。好立地にあってはそれなりの目標設定を行い、さらに収益が上げられるよう発展的に努力をします。立地条件で劣るところは、経営資源の配分を考慮しながら、身の丈に合った戦略を展開します。

道の駅に駅長が常駐するところは概して業績が上がっています。反対に不在のところは低迷しています。一定以上の売上規模がないと常駐が難しい面もありますが、道の駅に管理者が居る、いないではその差は歴然としているので、長期的な観点から駅長の常駐を促したいと思います。

道の駅は近隣の観光地の案内所として捉えると最適な存在です。わざわざ近くまで客が来ているのですから、観光地のパンフレットや映像情報で案内するのはやさしいことです。道の駅のスタッフが観光ガイドの役割を果たせるような研修がされていれば、一層効果があります。

土産物は需要が多いのですが、市町村合併の影響もあって、広域的に出回っている名物・

特産品といわれる土産物に地域特性がなくなったと言われます。一方、朝市で売られる山菜・野菜・果物・花は鮮度が珍重されるので、地域限定、量的にも限られるところから、人気があります。

今回の調査で道の駅は休憩機能、情報発信機能、地域連携機能は十分果たしていると思います。その他にも地場産品の発掘や雇用の創出に大きな役割を果たしていること、さらには過疎化した地域に都会からのＵターンを促進した例もあり、道の駅が果たす役割の大きさに気付きました。